

<2学期の人権・同和教育HR活動報告>

9月16日(金) 1年生(身近な差別に学ぶ)

1年生は、ハンセン病を通じて、①偏見や差別がなくなるのはなぜか ②差別を「自分ごと」としてとらえ、何を大切にすれば差別をなくすことができるか について考えてみました。ハンセン病に関する動画や資料から、ハンセン病患者や家族の人が今も差別や偏見に苦しんでいることを理解し、「自分ごと」としてとらえるために、「何を大切にすれば差別はなくなるか」について話し合いました。クラスごとに短い言葉でまとめてもらい、『相手を理解する』『正しい知識』『コミュニケーションをとる』など、さまざまな意見が集まりました。

「ハンセン病」について学んでみよう

「ハンセン病」は「らい菌」という細菌による病気です。病気が発見された当時は治療方法が確立されておらず、後遺症として手足が変形したりしたことから、病気にかかった人は差別の対象になっていました。さらに、明治時代後期には、この病気にかかった人達を療養所に収容し、強制隔離するなどの政策がとられました。その後有効な治療薬が開発されたにもかかわらず、ハンセン病にかかった人達は、私達と同じように生活することを許されず、療養所でずっと生活させられました。このことで国に責任を求める長い裁判が続き、令和元年になってようやく国がこの政策の間違いと患者さん達への差別を認め、謝罪しました。

いくら国が責任を認めても、ハンセン病による差別に苦しんだ人々の歴史はなくなりません。このような悲劇が二度とくり返されないよう、私達は常に人権感覚を磨き差別を見ぬく目を養う必要があると思います。

*中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」

(厚生労働省ウェブサイト)



10月12日(水) 3年生(結婚差別に学ぶ)

1学期で就職差別について学んだ3年生は、今回結婚差別について学びました。島根県の事例を参考に、差別をしない(されない)ためにはどうすればよいか考えました。この学習は2週間後の講演会につながるもので、生徒たちは資料を読み、それぞれの立場に立って、課題や解決策について話し合いました。

10月27日(木) 3年生対象人権講演会(講師 日野清人さん)

今年は安来市より日野清人さんを講師にお招きし、結婚差別に関する講演をしていただきました。日野さんは穏やかな口調ではありましたが、自身が経験された職場での差別、追い詰められて苦しい思いをした時、結婚する時、そして家族への思いを1時間30分の講演の中で熱く語っていただきました。クラスで結婚差別に関するホームルームをした時同様、生徒たちは一生懸命日野さんのお話を聞き、「自分ごと」として受け止めている様子でした。後日、生徒からの感想を日野さんに送ったところ、次のようなメッセージをいただきました。

昨夜、夕食後に感想文を手に取り読み始めると途中で止めることができず
結局約3時間半かかって全部読ませていただきましたが
それでもまだまだ読み足りない感じです

日野さんは、講演会だけでなく、音楽活動を通じた人権啓発運動もなさっていると聞きました。今度はバンドの皆さんとともに、また違う雰囲気の中で人権について考えてみたいと思いました。本当にありがとうございました。



写真：3年生 HR 活動
および講演会の様子

11月24日（木）2年生（解放令に学ぶ）

2年生は「賤称廃止令（解放令）」と「水平社宣言」を題材に、「なぜ差別はなくならなかったのか」を学び、そして「人々が水平社宣言に込めた思いを読み取る」活動をしました。今年は「水平社創立百周年」ということで、島崎藤村の「破戒」が再び映画化されました。まず、モデルとなった人物「大江磯吉」の生きざまから当時の差別の現状を知り、差別される人々の「差別に負けたくない」「差別をしない人を育てたい」思いから水平社創立につながってゆくことを学び、そして最後に「水平社宣言」を読みました。水平社設立大会の再現動画から臨場感あふれる朗読を聞き、生徒たちも当時岡崎公会堂に集まった人々の熱意と決心が感じられたと思います。



（写真：2年生HR活動の様子）

生徒達の感想より***水平社宣言がどのような経緯で出来上がったのか、差別されていた人々がどのような思いを持っていたのか考えることができた。現状を打破するには、誰かにしてもらうのではなく、自ら行動しなければならないという意思を感じた。***全国水平社は、中学校の時に少し学習したのでわかった気になっていましたが、今回の学習で深く知ることができました。***自分たちで手を取り合って行動していて、とても強い人たちだと思いました。また、現在でも差別は続いており、それを断つためにも過去の過ちを知って見直すことが大事だと思いました。***水平社宣言の原文の意味をきちんと知ることができました。「私たちが救ってあげようという運動は、かえって

多くの私たちの仲間をだめにしてしまいました。だから今、差別を受けている私たち自らが立ち上がったのです。」という部分がとても印象に残りました。***最近、日本史の授業で全国水平社について習ったのですが、それよりも今日はより深い内容を学ぶことができました。***人は平等であるので、差別というものを作ってはいけません。人は嫌な人を見つけるとすぐに差別をして距離を置くようになってしまうので、そういったことをなくすためにも人を尊重する気持ちを忘れてはいけませんということがわかりました。***水平社の旗の刺には『内でも外でも差別をしない』という意味と、黒い背景は厳しい世の中を表していると知って、どれだけ当時強いものだったのかが伝わります。そして、水平社宣言の原文には、現代語訳にはない力強さがあるって、書いてある事実が驚かされつつ、この内容を後世に伝えるべきだと思いました。***『勤』という字に、普段使う『勞』とは意味が全く異なると知って驚きました。同情（のような）ことが上→下という考えを生み出しているの、元々同情という言葉は嫌いだったのですが、今回の『勤』の字やムービーを見て、この感覚を大切にしていこうと考えました。***差別をする人はよく意味も分からずしてた人も多かったです。現に、磯吉さんが小学校教員の時でも、保護者からの反対で辞めさせられた時、少なからず子供の耳にも入り、「磯吉さんは悪い人だ」と刷り込まれていた可能性があるからです。なので、まず親から差別問題に取り組み、すべての人々を尊敬してみな平等になれるように努めていかなければなりません。***今日部落差別という言葉を目にするのはゼロに近いですが、このような現状になったのは、昔の人々が様々な活動をしたからだ、と思いました。政府も運動をしなかったわけではないけれど、何も変化がなかったので自ら立ち上がるのは本当にすごいことだと思うし、それほど差別に苦しんでいたのか、と思いました。

担当者より

今回2年生では、導入に島崎藤村「破戒」を選びました。「破戒」は、その内容から、解放団体からの抗議を受けて一時絶版になっていたそうです。当時の人々は、自分たちの辛く悲しい体験をさらされることに大変な苦痛を感じたのかもしれませんが、しかし、最後、主人公は周囲に身分を打ち明け、新天地へ旅立ちます。差別を乗り越えて、人間として強くなろうとする主人公の姿に、藤村は差別問題解消への希望を重ねたのではないのでしょうか。（文責 波多野）

3学期の人権・同和教育関連行事

1月26日（木）2年生人権・同和教育HR活動

発行 令和4年12月23日
大田高校 図書・人権・同和教育部